

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|----------|----|------|------|-----------|-----------|-----|---|--------|----------|
| 授業科目 | 看護教科教育法Ⅱ(2022年度入学生) | | | | | 実務家教員担当科目 | - | | | | |
| 単位 | 2. | 履修 | 選択 | 開講年次 | 3~4 | 開講時期 | 後期・前期 | | | | |
| 担当教員 | 前田 由紀子 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 看護教科教育法Ⅱにおいては、看護教科教育法Ⅰの学びを踏まえた上で、看護実践に必要な知識と技術の習得に向けた授業「演習」と「実習」における授業設計について解説する。そのうえで、模擬授業の設計とそれに基づく授業実践を行い、授業実践能力を養う。加えて、看護教育に携わる者としての態度及び実践的教育力・研究能力を養うことを目指す。 | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 講義、演習 | | | | 授業方法 | 模擬授業 | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校看護科の教育目標及び教育課程を説明する。 2. 看護基礎教育における「実習」の学習形態の特徴について説明できる。 3. 講義と実習の一体的な指導にかかる授業の設計方法と評価について説明できる。 4. 臨地実習における指導計画・指導方法について説明できる。 5. 模擬授業を実践し、客観的に評価できる。 6. 看護教育の授業研究の必要性について説明できる。 <p>高等学校看護科の教育目標及び教育課程を理解し、看護基礎教育における「実習」の学習形態の特徴を踏まえ、講義と校内実習の一体的な指導にかかる授業の設計と評価ができる。さらに、臨地実習における指導計画・指導方法について説明できる。</p> <p>模擬授業を実践し、その授業を評価し、看護教育の授業研究の必要性について理解することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 理想的レベル | <p>高等学校看護科の教育目標及び教育課程を理解し、看護基礎教育における「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読み、広い視野で考えることができる。講義と校内実習の一体的な指導にかかる授業の設計と評価については、グループで意見交換したり、看護学科教員のアドバイスも受け、積極的な姿勢で取り組むことができる。さらに、臨地実習における指導計画・指導方法について関連の図書を読み、その特性、指導法について考えることができる。事前練習を重ね、模擬授業を実践し、その授業を客観的に評価するとともに、看護基礎教育の授業研究の必要性について理解することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | 評価割合(数値) | | | | | 備考 | | | | |
| 試験 | | | | | | | | | | | |
| 小テスト | | | | | | | | | | | |
| レポート | | 15% | | | | | | | | | |
| 発表(口頭、プレゼンテーション) | | 35% | | | | | 模擬授業 | | | | |
| レポート外の提出物 | | 50% | | | | | ポートフォリオ作成 | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | |
| カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| DP1 | ○ | DP2 | ○ | DP3 | - | DP4 | ○ | DP5 | - | ナンバリング | NU34110J |

| 学習課題（予習・復習） | | 1回の学習目安 （時間） |
|------------------------------|---|-----------------|
| 予習：該当部分の予習、復習：該当部分の復習・レポート作成 | | 4 |
| 授業計画 | | |
| 第1回 | テーマ：高等学校看護教育の目標及び教育課程 看護教科教育法Ⅰの授業を踏まえ、高等学校看護科教育の目標及び教育課程について解説する。 | |
| 第2回 | テーマ：看護基礎教育における授業と学習形態 看護基礎教育における学習形態のうち「演習」について解説する | |
| 第3回 | テーマ：校内における実習の授業設計（1） 講義と実習の一体的な指導にかかる授業の設計方法について概説する | |
| 第4回 | テーマ：校内における実習の授業設計（2） 講義と実習の一体的な指導にかかる授業の評価について概説する。 | |
| 第5回 | テーマ：臨地実習における教授活動（1） 臨地実習における学習活動及び教授活動、実習評価について概説する。 | |
| 第6回 | テーマ：臨地実習における教授活動（2） 臨地実習における教員の役割、指導計画及び指導方法について概説する。 | |
| 第7回 | テーマ：校内における実習の授業設計（1） 前回までに学習した内容を踏まえて授業を設計する（基礎看護技術・単元）。 | |
| 第8回 | テーマ：校内における実習の授業設計（2） 基礎看護技術演習の内容で授業案を設計する（本時の授業案①）。 | |
| 第9回 | テーマ：校内における実習の授業設計（3） 基礎看護技術演習の内容で授業案を設計する（本時の授業案②）。 | |
| 第10回 | テーマ：校内における実習の授業設計（4） 基礎看護技術演習の内容で授業案を設計する（本時の授業案③）。 | |
| 第11回 | テーマ：模擬授業（1） 作成した授業計画に基づいて、模擬授業を展開する（基礎看護技術演習①）。 | |
| 第12回 | テーマ：模擬授業（2） 作成した授業計画に基づいて、模擬授業を展開する（基礎看護技術演習②）。 | |
| 第13回 | テーマ：模擬授業（3） 作成した授業計画に基づいて、模擬授業を展開する（基礎看護技術演習③）。 | |
| 第14回 | テーマ：模擬授業の評価 展開した模擬授業について振り返り、評価基準に基づいて、自己及び他者評価を行う | |
| 第15回 | テーマ：まとめ 看護教科教育法Ⅱで解説した内容から重点項目を概説するとともに、看護教育に関する課題についてディスカッションする。 | |
| テキスト | 文部科学省：高等学校学習指導要領解説看護編 平成30年告示、東山書房 佐藤みつ子、宇佐美千恵子、青木康子：看護教育における授業設計、医学書院 | |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介 | 藤岡完治、堀喜久子編：看護教育の方法、医学書院 その他授業中に必要に応じて提示する。 教材：必要に応じて資料を配布する。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | レポートは全体に対してコメントします。発表は、模擬授業を行い授業内でコメントします。レポート外の提出物として、ポートフォリオを作成し、学習のプロセスを見ながらフィードバックします。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | これまで学習した看護に関する専門基礎科目・専門科目および教職に関する科目が基礎になりますので、日ごろから看護に関する科目に積極的に取り組みましょう。看護学生として受けた授業（講義・演習・実習）を振り返り、これからの看護教育方法について考えをめぐらせてみましょう。 |